

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	小西 雅美
論文担当者	主査 森本 剛
	副査 西尾 元
	副査 小山 英則
学位論文名	血清尿酸と動脈硬化早期指標との関連：CAVI（心臓足首血管指数）による検討－篠山研究－
論文審査の結果の要旨	
<p>地域一般住民において、尿酸値と動脈硬化指標との関連を定量的に明らかにすることで、地域保健活動において尿酸を測定し、保健指導に活かすことの有用性が明らかになる。本横断研究は、丹波篠山市在住の40歳から64歳の国民健康保険加入者を対象とした特定健診受診者のうち、循環器疾患および腎不全の既往がなく、本研究に同意した男性501人、女性702人を対象とした。対象者にはCAVI（心臓足首血管指数）の測定を行い、CAVI 8.0以上を早期動脈硬化の指標とした。血清尿酸値を性別ごとに4分位（Q1～Q4）に分類したうえで、最低分位（Q1）をリファレンスとし、年齢、BMIなど10変数の動脈硬化危険因子を調整したQ2からQ4のCAVI 8.0以上に対する多変量調整オッズ比（mORs）をロジスティック回帰分析で推定した。その結果、59歳以下の男性では、Q1（5.3 mg/dL以下）に対して、mORはQ2（5.4-6.1 mg/dL）で4.27（1.72-10.6）、Q4（7.0 mg/dL以上）で3.79（1.45-9.94）であり、Q1からQ4にかけてのトレンドも有意であった。59歳以下の女性では、Q1（4.0 mg/dL以下）に対してQ4（5.3 mg/dL以上）におけるとしたmORは3.41（1.38-8.43）であり、Q1からQ4にかけてのトレンドも有意であった。男女とも60歳以上では尿酸値分位とCAVI 8.0以上の間に有意な関連はみられなかった。これらの結果から、40歳から59歳の地域一般住民において、男女ともに軽度の尿酸高値（5.4 mg/dL以上）が早期動脈硬化と関連する可能性が示唆された。</p> <p>本研究は、特定健診受診者における軽度の尿酸高値と早期動脈硬化との関連を横断研究で提示した公衆衛生学的に意義のある研究であり、学位授与に値すると判断した。</p>	